

1 単元 「冬休みの計画を立てよう」

2 指導観

- 新型コロナウイルス感染症拡大を契機とした働き方、学び方の多様化などにより、リモートワークやオンライン授業のための環境整備が急速に進んだ。通勤や勤務などの時間の有効活用ができるなどの利点がある一方で、画面を通じた情報のみによるコミュニケーション不足を感じる声も少なくない。

本単元は、級友と冬休みに遊びに行く相談をする活動を通して、お互いの希望する場所や行動、自身の予定をもとに、相手の予定や興味に関する質問や、相手の発話の内容から関連する質問を考えながらやり取りを継続させることをねらいとしている。学習内容としては、疑問詞+不定詞の用法や活用、第2文型の用法、第4文型の用法、相手の発言に応じた受け答えや会話の促進の方法、関連した質問の活用などがある。本単元の学習を通して生徒は、冬休みに遊びに行く計画を立てるという目的について、級友とやり取りを継続することができる。したがって本単元は、相手の発言に対して、関連した質問を重ねたり、自身の考えを伝えたりしながら即興的なやり取りする力を養えるという点で大変意義深い。

○

## 個人情報保護のため、 生徒観は省略しています。

3 目標

- 疑問詞+不定詞の用法や使用場面を把握し、それらを用いて、冬休みの予定について自身の意見を述べたり、相手に質問したりすることができる。
- 級友と冬休みの予定を計画するうえで、お互いの希望や都合を調整するために、相手に質問したり、相手の発話に応じて自分の意見を述べたりすることができる。
- 級友と冬休みの予定を計画するうえで、お互いの都合を考えながら話し合いをしようとしている。

4 計画 (10時間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	帯活動	評価の観点
一	3	1 各言語材料の用法を確認し、使用場面を捉える。 (1) 第2文型 (look, sound) (2) 第4文型 (show, give) (3) 疑問詞+不定詞	やり取りの段階を踏まえた Small Talk	知：各言語材料の用法、活用場面を把握することができる。
二	3	2 様々な場面を設定し、第一次の言語材料を使用した、対話活動をおこなう。【本時 3/3】		思：各言語材料を活用し、やり取りを展開することができる。
三	3	3 本単元の課題を確認し、やり取りを実践する。 (1) パフォーマンス課題を把握し、やり取りに必要な要素について話し合う。 (2) お互いの希望や都合を調整しながら、冬休みの予定を立てる。		思：冬休みの計画を立てるために整理した項目をもとに級友とお互いの都合や希望についてやり取りすることができる。
四	1	4 冬休みの予定を立てるやり取りの活動を振り返る。		態：本題材の成果と課題から、次の学習へ結びつけようとしている。

5 本 時 令和5年11月10日（金） 第4校時 計画 第二次の3 2年1組教室にて

(1) 主 眼

○ 無人島から脱出する方法について、班員とやり取りする活動を通して、自分の意見を述べたり、相手に関連する質問をしたりしながら、対話を継続することができる。

(2) 準 備

①Small Talk ワークシート ②学習プリント ③informationカード ④振り返りシート

(3) 過 程

学習活動・内容	準備	手だて(○)と評価(◇)	形態	配時
Small Talk (トピックは生徒が決める)	①	○ やり取りを継続させる工夫に気付かせるために、一ペアがやり取りをしている間、残りの二人にやり取りで効果的だった点を記入するよう指示する。	小集団	10
1 本時のめあてを確認し、学習の見通しを持つ。 ・疑問詞＋不定詞の使用場面	②	○ 本単元で学習した表現を、本時の課題につなげさせるために、本単元で学習した表現を使用した発問をする。	一斉	5
Today' s Goal 無人島から全員で脱出する方法を話し合おう。				
2 話題の流れを想定し、必要な表現を確認する。 ・方法を訪ねる表現 ・身の回りのものに使われる表現	②	○ やり取りの話題を明確にさせるために、やり取りで必要な表現について問う。	一斉	10
3 班でお互いに持っている情報を聞き出しながら、無人島から脱出する方法についてやり取りをおこなう。 ・やり取りを継続させるための方略 ・相手の発話を受けて関連する質問をすることの有用性		○ 会話を関連付けて継続させるには、相手の発話を受けて質問を重ねることが有効であることに気づかせるため、課題解決のためのやりとりの展開を記述するように促す。	小集団 ↓ 一斉	20
4 本時を振り返り、次の活動へ向けた改善点を把握する。 ・相手をよく知るための方略の必要性	③	○ 自身の対話の目的を明確にさせるために、班で出たアイデアから一つを選択させ、その理由を問う。 ◇ やり取りを継続するために、問い返しや、疑問詞＋不定詞の活用などの、必要な要素を記述することができたか。 <様相観察, 学習プリント分析>	個 ↓ 一斉	10

## 1 単元 「福岡に住む海外の人から福岡での生活のリアルを知ろう」

## 2 指導観

- 在留外国人の数が令和4年度に初めて300万人を超え、過去最高を更新した。また、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が移行され、今後その数はさらに増加することが予想される。共生社会の実現に向け、彼らの考えを捉えながら、共に行動しようとする態度が一層求められる。

本単元では、福岡在住の海外の人と、生活する上での福岡の良い点や困っている点についてやり取りする活動を通して、相手の話に共感しながら自身の考えを述べたり、話題に関連した質問を行ったりしながら、相互に情報を出し合う態度を育成することをねらいとする。本単元の学習を通して、生徒は、異なる背景をもつ人々との対話から、福岡について既にもっている自身の考えを相対化させるとともに、やり取りを重ねながら相互の意見の共有につなげることができるだろう。したがって本単元を学習することは、身近な話題の中から未知の側面を見出し、相手の考えを捉えながら自身の意見を述べることで、相互の理解につながるという点において意義深い。

○

個人情報保護のため、  
生徒観は省略しています。

## 3 目標

- “If I had~, I would~.” のような仮定法を用いた表現の使用場面を把握し、自身の考える理想を伝えたり、相手の考えを聞き取ったりすることができる。
- 福岡在住の外国人の福岡での生活の良いところや困ったことをより詳しく捉えるために、相手の発話に合わせて自分の考えを述べたり、関連した質問を行ったりすることができる。
- やり取りの相手の考えを踏まえながら、意思疎通を重ね、相互理解を図ろうとする。

## 4 計画（8時間）

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動	評価規準
一	1	1 福岡在住の外国人データを確認し、単元の学習課題を捉える。  〈学習課題〉福岡に住む海外の方々にとって、福岡ってどんな街かを探ろう。	態：福岡在住の外国人が考えるだろう福岡の良い点や困った点を予想し、書き出そうとしている。
二	4	2 仮定法の使用場面を捉え、1単位時間ごとに提示される話題において、級友同士のやり取りを行い、相手の発話から自分の意見や関連した質問を述べる。【本時 4/4】 ※All English Day (AED) と題し、すべて英語での授業を実施する。	知：仮定法を用いて自身の理想を述べたり、“I think so too.”, “How about~?” など用いながら相手の考えに同意や提案をしたりすることができる。
三	2	3 学習課題に対して、外国人ゲストティーチャー (GT) とやり取りを行い、やり取りを録画した映像をもとに振り返る。 (1) GTと即興でやり取りを行う。 (2) 録画したやり取りの様子を視聴し、やり取りの改善策を設定する。	思：GTが抱えている福岡での生活における考えを聞き取り、学習した表現を用いながら相手の考えに同意したり、関連した質問を行ったりすることができる。
四	1	4 単元全体を振り返り、単元を通して身につけた表現の有用性を把握する。	態：学習した表現を用いることで、GTとのやり取りがどのように展開したかを把握しようとしている。

5 本 時 令和5年11月10日（金） 第3校時 計画 第二次の4 3年3組教室にて

(1) 主 眼

○ 附属福岡中学校にあったら良いものについて級友同士で即興的にやり取りする活動を通して、相手の考えに対して、同意したり、関連した質問をしたりしながら会話を継続することができる。

(2) 準 備

①前時までの内容の掲示 ②GTの予想される発言内容 ③撮影用タブレット ④振り返りシート

(3) 過 程

学習活動・内容	準備	主な手だて（○）と評価（◇）	形態	配時
<p>1 前時までの学習活動で用いた表現を想起し、本時の話題およびめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話題に応じた仮定法による表現</li> <li>・無生物を主語にした表現</li> </ul> <p>【例】 If <u>I</u> had Doraemon, I would use Anywhere Door. If <u>Fukuoka</u> had a Greek restaurant, I would be happy.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     Goal Let's talk about things you wish this school had.                 </div>	<p>①</p> <p>②</p>	<p>○ これまでに学習した表現を、本時および単元学習課題につなげさせるために、各話題で発話した内容と、単元学習でGTが発言すると予想される内容とを提示し、その違いを問う。</p> <p>○ 単元課題学習に関連した話題を設定させるために、GTの予想発言の内容から一部を変更させ、本時においてどんな話題でやり取りを行うかを問う。</p>	一斉	8
<p>2 附属中学校にあったら良いものを何にするか決め、伝える内容を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話す内容に関する英語表現</li> </ul>		<p>○ 提示された話題に対してどのような話をすれば良いかを共有させるために、本時の話題に対する教師の考えを例示するとともに、生徒が伝える内容に関する語を調べる時間を設ける。</p>	個	8
<p>3 班内でペアを作り、やり取りを行い、アドバイをもとに、やり取りに再挑戦させる。</p> <p>(1) ペアでやり取りを行った後さらに班員でアドバイス活動を行い、もう一方のペアも同様にやり取りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やり取りの継続に有効な同意や質問</li> </ul>		<p>○ 同意や関連した質問が適切に行えているかを確認させるために、班内でオブザーバーとしてやり取りをモニタリングする役割を設け、やり取りを観察させた後、アドバイを行うように指示する。</p>	ペア ↓↑ 小集団	15
<p>(2) 班を組み替え、異なる級友とやり取りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した改善策の効果</li> </ul>	③	<p>○ アドバイスに基づいた改善策を実際のやり取りで行わせるために、班を組み替えて別の級友とやり取りを行うように指示し、やり取りの後に、改善策によってやり取りの流れはどうかを問う。</p>	ペア	7
<p>4 やり取りで使用した表現を共有し、次時に向けた見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の使用した表現と次時の活動との関連性</li> </ul>	④	<p>○ 本時の学習が単元課題の解決にどうつながるかを捉えさせるために、本時の話題と単元課題における共通点と相違点を提示し、どのような表現が使えるのかを問う。</p> <p>◇ 附属中学校にあったらよいと思うものについて、相手の考えを踏まえて同意(I think so too. など)や、関連した質問(How about ~? など)を行いながら、やり取りを継続することができたか。〈動画、振り返りシート分析〉</p>	一斉	12